

日本共産党

うらわ会

日本共産党浦和区後援会ニュース
2015年3月号・No.45
浦和区北浦和3-14-16
TEL/FAX048-833-4515
★★★★(部内資料)★★★★

とりうみ敏行勝利へ決意固く 「春のつどい」130人の参加で大盛況

カルタスホールの会場は、ほぼ満席の130人の参加者で、「とりうみさん、市議奪還を！」の熱意に包まれました。後援会長の野々垣務さんのあいさつは三浦綾子の「銃口」を引用し、選対本部長の射田英雄さんは東京大空襲の経験をもとにあいさつをされ、かつての戦時下のような日本に二度とさせないためにも、今、とりうみさんの議席はなくてはならないものと強調されました。

第1部の演芸は、お馴染みの三遊亭鳳笑さんの落語2題と、神田すすさんの講談でした。鳳笑落語に大笑いし、講談に涙した、楽しく心の和むひと時でした。第2部は、いっせい地方選に向けた決意と応援演説でした。とりうみ候補の決意では「人生の原点」の話がされ、その心に染み入る話に多くの参加者が感動しました。伊藤岳さんとお二人の応援演説を聞いて、何としても、浦和区から共産党議員とりうみさんを当選させようという、さらなる思いが高まったつどいでした。



市議選勝利への決意を語るとりうみ候補

う病名を突き止めて、手術後約10か月間、ギブスベッドで寝たきりの生活になりました。6人の大部屋での闘病生活ですが、この生活が私の人生を大きく変えたと思います。

(2) 共産党員と出会い、学んだこと

いろいろな方と出会いました。当時は、毎日のように病院の前を「ベトナム戦争反対」のデモ行進があり、その声が病棟の中にも響いてきました。ベトナム戦争でなんだろう？ この社会はどのようにできているのか？ 健康な時には考えもしなかったことが次から次へと浮かんできました。

入院した病棟が外科病棟だったので結構元気な人もいて、「困ったことがあったら何でも言いなさい。」と言って、身動きのできない私の身の回りの世話までしてくれた方が大勢いました。私は、こういう形で人の優しさに触れるのは初めてでした。

寝たっきりですから何処へも逃げられません。この人たちから、社会の成り立ち、歴史の進む方向、ベトナム戦争、安保条約、そして日本共産党の存在を知りました。

(1) 代々木病院で1年以上の闘病生活

私と日本共産党との出会いは、1968年、20歳になったばかりの年の12月、突然の病を得て、東京代々木病院へ入院したことから始まります。

最初の3か月ぐらいは病名も分からず、当時流行していた「スモン病」かと疑われ、歩行困難で、ベッドの上が生活の場でした。元気になれるのか、このまま死んでしまうのか、一番つらい時でした。

医学とはすごいもので、とうとう胸椎カリエスとい



参加者の声援に応えるとりうみ候補と伊藤岳さん

(3) 入党の決意

やがて病が癒えた人たちから順番に退院してゆくわけですが、決して共産党に入れなどとは一言も言わずに退院してゆきました。あとから聞いたところ、私の世話をしてくれたり、いろいろな話をしてくれた人たちの多くが、日本共産党員だと聞かされました。

「日本共産党とは、あんな人間味あふれる人たちの集団なのか、もし元気になれば自分も共産党員として人の役に立ちたい。」そう決意しました。

幸い、病も癒えて1970年7月15日、当時22歳で生まれ育った新宿区若葉町で入党しました。

45年間、節を曲げずに今日まで来れたのも、この時の体験が大きく影響していると思います。

(4) 弱い者の味方に

同時に、病院の中で、誰も見舞いに来ない高齢者の方々の寂しい闘病生活や、その末の死を見つめた経験も、「長い間苦労を重ねた高齢者が何で報われないのか？」二十歳そこそこの青年の胸に、「弱い者の味方になろう」という決意が生まれた原点になりました。

私は、この思いをこれからも持ち続けて頑張ります。何としても、議会へ送り出していただけますよう。どうぞよろしく願いいたします。

(5) 地方自治体の第一の仕事

「国の悪政の防波堤となり市民の暮らしを守る」

今、日本共産党の議員は7人です。この7人の議員が、市民要求実現のために全力を上げています。今開かれている議会では、国民健康保険税を一人1万

円引き下げのための条例改正案を提出し、その実現のために奮闘しています。

また、IS（イスラム国）に対する非難決議も共産党市議団の奮闘で全会派一致で可決されました。

この4年間で31か所の認可保育所の増設や、学童クラブの家賃補助を全額市の負担とするなど、市民要求実現の上でかけがえのない市議団となっています。他の会派の議員は、消費税8%増税の押し付けをはじめ、下水道料金大幅値上げ、敬老祝い金削減、難病患者見舞金制度の廃止など、市長の提案に賛成して、国の悪政の推進役を果たしています。

(6) さいたま市に無いのは お金ではなく「福祉の心」

みなさん、さいたま市の財政は、全国の政令市の中で3番目の財政力を持っています。総額で662億円もの溜め込みがあります。この溜め込みの一部を使えば、市民生活を支える財源は十分できます。国保税の一人1万円引き下げや、下水道料金を値上げ前に戻すことも、敬老祝い金復活も、保育料の引き下げなども溜め込みのわずか10%、60億円あれば実現します。みなさん、さいたま市に無いのはお金ではなく、「福祉の心」ではないでしょうか。

政令指定都市に相應しい市民サービスの水準に引き上げてこそ、誰もが安心して暮らせるさいたま市と言えるのではないのでしょうか。



落語を熟演する三遊亭鳳笑さん

(7) 浦和区現職議員7人は 消費税増税賛成議員

市民の願いをまっすぐ市政に届けられるのは、日本共産党の議員だけです。浦和区での日本共産党の議席を、私、とりうみ敏行に取り戻させてください。3期12年の経験を生かして即戦力で頑張ります。投票箱

の蓋が閉まるまで、最後の最後までのご支援を心からお願いいたしまして、私の決意といたします。

鳥海さんの当選で、 要望や願いが届くさいたま市に

瀬ヶ崎：関原 雅子

「認可保育所を増やして」

働いているお母さんは年々増え、今年、認可保育所への申込み人数は、六千人超で、不承諾者数は二千人を超えてしまいました。さいたま市は定員増をしていますが、とても追いついていません。マンションが無計画に建てられ、南区、浦和区では、今年も四百数十人の認可保育所に入れない子どもが出てしまいました。

「少人数学級を実現させて」

小学校でも、南区では同じマンションで「階が違うと学区が違う」という信じられないことが起こっています。10年にわたって「少人数学級を」と市へ要望していますが、さいたま市は「大規模校・マンモス校の解消がまず優先」と言います。

「就園奨励金を拡充して」

毎月の幼稚園への納入額は月 35000 円～45000 円です。東京では、区の補助で保育料が返ってきます。さいたま市にも「就園奨励金」という納税額によって補助がありますが、十数万円です。年少者扶養控除が無くなった若い世代にとっては厳しく、就園奨励金を拡充して頂きたい。

「給食費が上がった、なんとかして。」



講演を演じる神田すずさん

学齢期の子を持つお母さんからは、「消費税増税で給食費も上がった、兄弟もいて大変」と声が寄せられました。滑川町などでは無料になっていますし、全国では 50 の自治体が

「給食費無料」です。前橋市や葛飾区では第3子から無料です。何らかの制度を考えて頂きたいです。

「子ども医療費無料の存続を」

一方、さいたま市が誇れる数少ない施策に「子ども医療費が中学校卒業まで無料」があります。しかし、改革フォーラムの議員が、「コンビニ受診」（無料だから、大した事無くても、気軽に夜中でも病院に行く）と攻撃しています。さいたま市も、「持続可能な制度として行くには何らかの方策を」といいます。黙って

いたら改悪されかねません。

（6）市民の暮らしを優先して

鳥海さんのチラシに「さいたま市に無いのは、お金ではなく、福祉の心です」とありましたが、その通りです。市民の暮らしより駅前開発を優先したり、自転車競技に3億も遣うことを何とも思わない議員ばかりでは、私たちの願いは届きません。日本共産党の議員を増やさないと変わりません。浦和区からとりうみ議員の誕生と11名全員当選で、活発な議論が展開されるさいたま市議会にさせ、私たちの要望や願いが届くようにさせていきましょう。

とりうみさんの当選は 暴走政治をやめせる確かな声

参議院埼玉選挙区候補：伊藤 岳

《21議席の力と政党助成金廃止法案》

昨年暮れの総選挙で21の衆議院の議席を獲得させていただきました。国会中継で共産党の出番が多くなったですよ。志位委員



とりうみ候補勝利の応援演説をする伊藤岳さん

長の予算委員会の質問も1時間半以上できる。

議案提案権で政党助成金廃止法案を提出しました。去年1年間、政治と金の事件・疑惑には飽き飽きしました。団扇の話、観劇会の話、下仁田ネギの話、ワインの話など、政党助成金を使って有権者の票を買収していたということです。政党助成金が暴走政治の車のガソリンになっていたということです。

そして政党助成金をもらいたいがための離合集散が行われ、いくつかの政党が誕生しました。政党助成金支給条件は、最低でも国会議員が一人はいなければいけない。国会議員が0の太陽の党に園田議員（次世代の党）が移り、今年から政党助成金が支給されることとなります。

「身を切る」と言う議員がいますが、政党助成金をやめにすれば国会議員450人を削るだけの新たな国民のために使える予算が生まれます。きっぱり受け取りをやめるべきじゃないでしょうか。政党助成金廃止法案を実現させましょう。

《憲法改悪の暴走を止める》

「安倍政権の暴走の車にはブレーキがありません。

なぞかけ
岸町：佐久間 純
再増税とかけて
お化け屋敷と解く
その心は
ゾーッとすん

川柳
岸町：だん吉
この道は 戦争への道 安倍総理
ヤシ飛ばす 議員に払う おらの税
悪政を 許すものかと こぶしあげ

あるのはアクセルだけ。ハンドルはついているけれど、右にしか回らない、まさに危険運転致死傷罪」です。総選挙後、さらにアクセルを踏んで、右にしか回らないハンドルをさらに切って、暴走を続けています。

とりわけ危険なのは、「戦後レジュームからの脱却」「戦後以来の大改革」発言です。日本国憲法を変えようという話です。民を切っても認められるような憲法を作って、公然と民を切り捨てる政治が増々暴走することになる。今にも戦争に行きそうな勢いなのに、憲法が変えられたら公然と戦争する国に進んで行ってしまうことになる。この

人いたら17人しか自民党に入れてないんです。日本共産党は得票率11%で、もう民主党を追い抜き、浦和で自民党の背中が見えるところまで二大政党の攻撃を打ち破って前進してきた。

「大丈夫かな」と不安な気持ちを持つよりも、是非前を向いて、4月の一斉地方選挙で大きな躍進をし、国の悪政の防波堤として市民を守る日本共産党のとりうみ敏行さんを勝利させようじゃありませんか。それが、暴走政治やめなさいという確かな声にもなりません。お力をお貸しください。

★3月7日(土) とりうみ選挙事務所開き
とりうみ選挙事務所元町2-1-1 10:30~

★3月12日(木)「日本共産党演説会」
埼玉教育会館2階 PM7:00

【弁士】大門みきし 参院議員・とりうみ敏行候補

暴走を今年、止めなければいけないと思います。

《介護保険改悪を止める》

介護保険が大改悪されようとしています。介護保険を受ける時、介護認定を受けます。要支援1,2の方々は4月から介護保険サービスの対象から外されます。隣のおばさんは要支援。足が悪いから介護保険で杖を借り、ヘルパーさんに来てもらっている。この杖とヘルパーさんが4月から取り上げられ、介護保険が受けられなくなる。さらに、来年度の予算では、介護報酬を2.27%減らす予算が提案されている。国から介護の事業所に渡される報酬の減額です。

今、埼玉県委員会として全県千カ所の介護事業所にアンケートをお送りして、「介護報酬減額でどんなことが予想されますか」という問いに、ほとんどの事業所が、「事業所を閉めざるを得なくなるかもしれない」と言っている。要支援の方の介護保険が取り上げられ、介護を受ける先そのものが日本の国内から消滅し、介護難民だらけの悲惨な国ということになってしまう。

《浦和区で共産党は第2党》

「去年までは共産党調子よかったけど、春まで持つかね」と心配の声が聞かれます。これまで日本共産党が苦しかったのは、二大政党という、共産党を封じ込める上ではこれ以上ないという仕組みが作られている。自民か非自民か、自民か民主か。共産党を土俵に上げない。今度の選挙は小選挙区制のマジックで自民党がたくさん得票をとったように見えますが、100

北浦和：佐藤 定輔

《編集後記》
二月中旬の一般紙トップ面に上場企業の純利益が二六兆円になる見通しとあった。三月末決算の上方修正で、過去最高の見通しだ▼これに比例して日経平均株価も1Tバブル以降一四年十月ぶりの一萬八千六百円になったとか、GDPも三期ぶりに好転したとか、デフレは脱却されたように報じられている▼が、果たして我々国民には裕福、満足の実感はあるだろうか。スーパーの売り上げ、消費性向は十か月連続のダウン。労働者の実質賃金は減っているし、高齢者は年金が減って医療費が増え、やりくり上手は限界だ。消費税八%は重圧だ。中小企業、零細企業の経営者は青息吐息▼大企業、大株主の一部分の富裕層だけが正体不明のアベノミクスの酔いに浸って、景気回復したかのような錯覚をしているのではないかな▼年末の選挙では大いに躍進した。四月の市議選でも大いなる躍進を期待している。(幹)